

『永続的な産地発展のために』

< 省力化を実現した高品質なす・きゅうりの生産 >



【産地名 児玉・美里・神川地区(埼玉県)】
産地データ (H14年)

対象品目名	なす
産地の名称	児玉・美里・神川地区
作付面積	51.5ha
主要作付品種	千両二号
作付農家戸数	140戸
出荷(販売)量	2,183t/年間
販売額	430百万円/年間
出荷(販売)先	県内(全農戸田ほか) 京浜(千住、新宿市場ほか) 県外(名古屋市場)

1. 産地の概要と特徴及び課題

ここ数年、輸入野菜の急増や景気の低迷により、価格の低迷が続いており、野菜農家の所得が減少しているとともに、農家の高齢化が進み、作業の厳しさから、供給力の低下や不安定化が懸念され、低コスト化と出荷物の均質化を図ることが産地として緊急の課題となっています。

そこで、合併となって広域化した農協組織を活かし、ロットを確保した出荷体制を整備するとともに、出荷調整労力を軽減し、余剰労力の活用による規模拡大、品質の向上を実現するため、選果施設を導入しました。このことにより、高齢生産者の生産力を維持し、国際的産地間競争を優位に展開していきます。

なすの作型(生育ステージ)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
作業	定植		×				×		播種			

2. 産地改革計画の概要

策定対象品目名	なす、きゅうり	該町 当村 市名	児玉町 美里町 神川町
策定年月	平成14年10月		
策定主体名	埼玉ひびきの農業協同組合		

(1) 計画の全体概要(要旨)

高齢化や作業の厳しさに由来する供給力の低下や不安定化を打開するため、選果機を導入することにより出荷物の均質化と生産費削減による低コスト化を図るとともに、余剰労力を活用してブロッコリー等の新規作付けを拡大していきます。

このことにより、生産者の経営的安定が図られ、産地としての生産力強化を実現していきます。

(2) 具体的な目標

低コスト化タイプ ・労働時間の削減 1029hr/10a 727hr/10a
・収量の増加 8,000kg 8,200kg

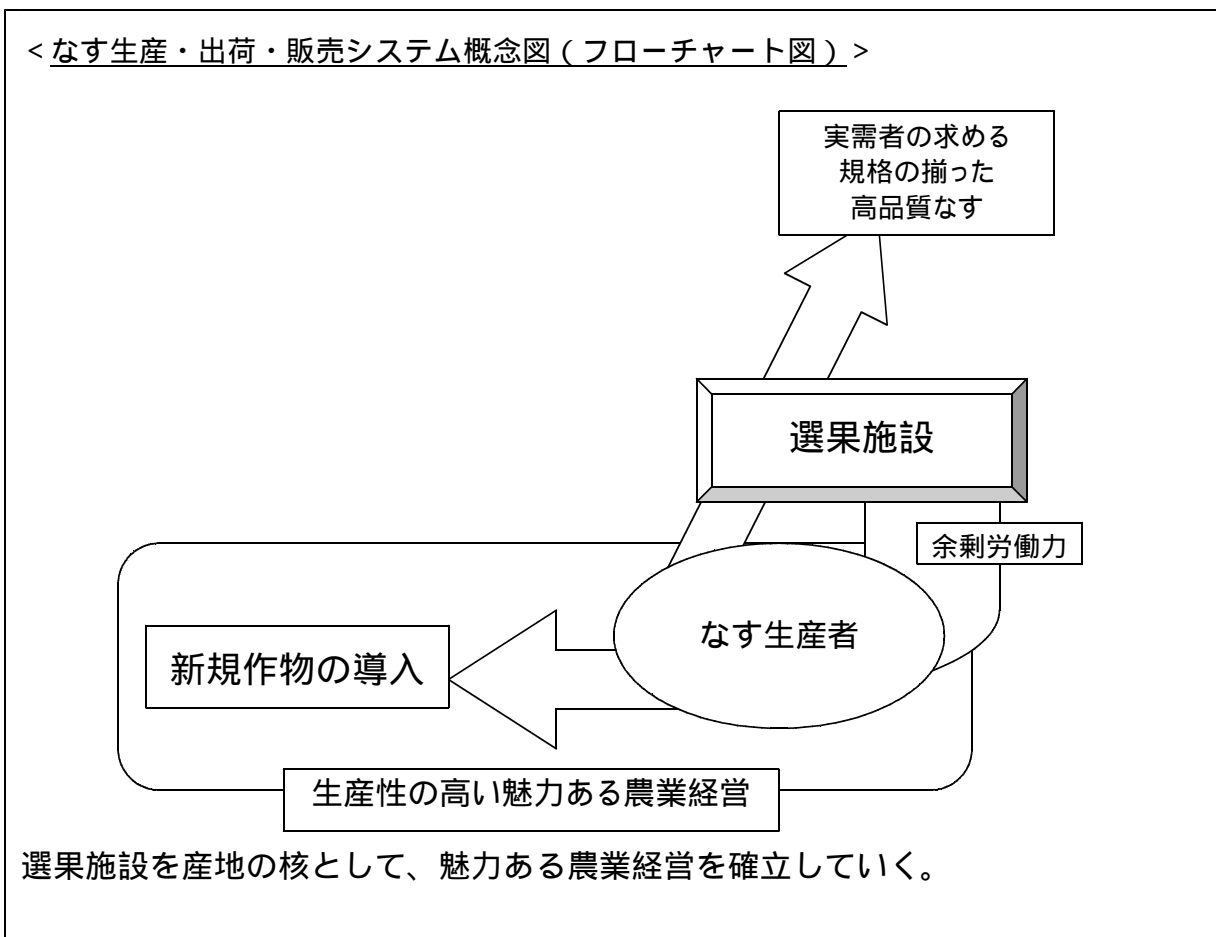
3. 産地改革計画の実行状況とその成果

選果施設の導入により、全作業時間の3割に当たる302hr/10a削減されており、余裕の出来た時間を活用し、栽培管理を徹底することにより品質や収量の向上が図られています。

さらに、新規作物の導入も進められており、特にブロッコリーの作付けを拡大しています。

今後、なすやきゅうりを基本に新規作物を絡めた経営体系を確立することにより、国際競争力を有する産地として継続的な発展が望めるものと考えています。

構造改革後の生産・出荷・販売システム概念図



産地改革に係る補助事業等の実施状況（平成14年度以降）

国庫補助事業

年度	事業名	事業主体名	事業内容	事業費	国庫補助金
14	輸入急増農産物対応特別対策事業	ひびきの南部選果機利用組合	なす・きゅうり選果施設 2千ケース/日×3ライン	(百万円) 182	(百万円) 91
14	輸入急増農産物対応特別対策事業	埼玉ひびきの農業協同組合	協議会の開催、産地改革計画の進行管理等	0.5	0.25
15				0.5	0.25
16				0.5	0.25

関連事業（取組等）

年度	事業（取組）名	事業主体名	事業（取組）内容	事業費	うち補助金
				(百万円)	(百万円)

4. 今後の課題とその取組方向

各経営体に合わせた、選果施設導入により発生した余剰労力の有効的な活用法を見出し、新規作物の作付け拡大を推進していくかが今後の最大の課題です。

課題を解決し、一つ一つの経営体が、なす・きゅうりを核とする複合経営を確立し、魅力ある経営として担い手の確保できる産地となるよう、生産者と農協が一体となった取組を展開していきます。

【特記事項】

産地改革・取組フォト



V字仕立てによる高品質栽培



出荷間近のなす



広々とした選果場（上）
で次から次へと
なすが選果される（左）

< 県・問い合わせ先 >

埼玉県本庄農林振興センター 事業推進部経営支援担当

住所：本庄市3036-1

TEL：0495-22-6156

< 農協・問い合わせ先 >

埼玉ひびきの農協経済部営農販売課

住所：本庄市若泉1-11-27

TEL：0495-24-7721